

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2021年11月19日(金)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年11月19日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【3号機タービン建屋周辺海側ヤード歩行中における当社社員の負傷について】 当社社員が、3号機タービン建屋周辺海側ヤードを歩行中、区画資材のバリケードにつまずき、膝を負傷。身体汚染はなく、救急医療室にて、右膝打撲と診断を受け治療実施。 原因は、大型トラックが走行してきたことからバリケード側に寄った状態で歩行していたため、足元への注意が不足していた。</p>	GⅢ	11月12日
2	<p>【2号機原子炉建屋西側構台ダスト放射線モニタの吸引ポンプ(B)の性能低下について】 当直員が、2号機原子炉建屋西側構台ダスト放射線モニタの吸引ポンプ(A)から(B)への定例切替において、「2号燃取準備ダスト放射線モニタ圧力高」警報発生を確認。 現場を確認したところ、ポンプ(B)から異音が生じており、ポンプ(A)と比較して吸引力が低下していることから、ポンプ(B)の性能低下と推定。 その後、ポンプを(B)から(A)へ切替、パラメータと運転状態に異常がないことから、系統に問題なし。 今後、当該ダスト放射線モニタ吸引ポンプを交換予定。</p>	GⅢ	11月17日
3	<p>【3号機燃料取り出し設備クレーンの主巻フック軸受の損傷について】 協力企業作業員が、3号機燃料取り出し設備クレーンの主巻フックの回転不良を確認したためフックブロックの分解を実施したところ、軸受に損傷を確認。 回転のみの影響であり、荷揚げ・荷降ろしの動作については問題なし。 今後、軸受を交換予定。</p>	GⅢ	11月17日
4	<p>【高性能多核種除去設備の昇圧ポンプ出口圧力計計器元弁グランド部より水のにじみ発生について】 協力企業作業員が、高性能多核種除去設備の昇圧ポンプ出口圧力計の点検が終了し使用開始したところ、計器元弁のグランド部より水のにじみ(滴下なし)を確認。 当該計器元弁「開」状態ではにじみが発生するが、元弁「閉」状態ではにじみは発生しないため、当該計器元弁を「閉」し、袋養生を実施。 昇圧ポンプ出口圧力計は2台あるため、圧力監視に問題なし。 今後、当該弁を修理予定。</p>	GⅢ	11月15日